
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第90集

上本田遺跡Ⅱ

—2次～6次、8次調査の記録—

2007.3

深谷市教育委員会

例 言

1. 本書は平成 18 年 2 月に実施した上本田遺跡 8 次調査の報告書である。遺跡の内容を把握するために旧川本地方で行われた過去 5 回の発掘調査の未報告資料についても掲載した。2 次～6 次は昭和 63 年から平成 10 年にかけて実施したもので、各調査の詳細については別表を参照されたい。
2. 整理作業は、平成 18 年度に深谷市教育委員会が行った。
3. 本書の編集・執筆は、深谷市教育委員会川本事務所 村松篤が行った。
4. 各遺構については種類別に記載を行い、既報告の「上本田遺跡 I」と通し番号とした。
5. 本書掲載の図については、遺構のスケールは原則として 1/80、遺物のスケールは 1/8 とした。
6. 出土遺物の保管と詳細なデータは、深谷市川本出土文化財管理センターで管理する。
7. 本書の作成に際して、調査報告書デジタル化制作（凸版印刷株式会社）、石器実測（大成エンジニアリング株式会社・シン技術コンサルタント株式会社）、土器実測写真撮影（シン技術コンサルタント株式会社）、cad 図面作成（株式会社東京航業研究所）について委託した。
8. 遺構遺物の詳細情報については、川本出土文化財管理センターホームページの深谷市遺跡情報データベースで公開している。そのため本書は遺跡調査のカタログ機能を果たしている。なお、図中の遺物番号は遺構番号横の No. とあわせてコード番号となる。

1、発掘調査にいたる経緯

2 次調査は昭和 62 年 11 月に町建設課から上本田遺跡内で歩道新設工事に対する埋蔵文化財の所在に関する協議があった。川本町教育委員会（以下町教委）は、開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。本調査は、川本町遺跡調査会が川本町長鯨井正三から委託を受け、現地調査を昭和 63 年 11 月 22 日～12 月 26 日まで行った。

3 次調査は川本町長鯨井正三から平成 3 年 5 月 8 日付け川福発第 66 号で川本町立南保育所建設予定地の埋蔵文化財の取り扱いの協議があった。平成 3 年 5 月 23 日付け川教発第 99 号で開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地で、開発に先立ち記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。6 月 28 日に試掘調査を行い、遺跡の所在を確認した。その後建設地の変更の協議が平成 3 年 7 月 24 日付け川福発第 199 号で提出され、平成 3 年 8 月 13 日付け川教発第 198 号で同内容を回答した。発掘調査は、川本町遺跡調査会が川本町長鯨井正三から委託を受けて実施することとし、平成 3 年 10 月 5 日に協定書を締結した。現地調査を平成 3 年 11 月 5 日～平成 4 年 2 月 27 日まで行った。

4 次調査は平成 4 年 11 月に川本町立デザイナーサービスセンター建設工事に関する埋蔵文化財に対する福祉課から協議があった。町教委は、開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が広がることが予想され、平成 5 年 6 月 24 日に試掘調査を行った。そこで開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。本調査は、川本町遺跡調査会が川本町長鯨井正三から委託を受け、現地調査を平成 5 年 9 月 13 日～平成 5 年 11 月 4 日まで行った。

5 次調査は平成 7 年 11 月に工場増設計画に関する埋蔵文化財に対する株式会社石英硝子から協議があった。町教委は、開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が広がることが予想され、試掘調査後に協議をすることとして、工場建設予定地北側の 400 m²の遺跡の所在を確認した。そのうち北西の 100 m²については、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。本調査は、川本町遺跡調査会が株式会社石英硝子株式会社から委託を受け、現地調査を平成 8 年 1 月 27 日～2 月 14 日まで行った。

6 次調査は平成 10 年 11 月に 1 次調査区西側に個人住宅建設工事に関する協議があった。町教委は、開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が広がることが予想され、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。トレンチによる確認調査を行い、削平予定部分のみ拡張を行い、町教委が国庫補助事業として調査した。現地調査を平成 11 年 4 月 6 日～4 月 12 日まで行った。

8 次調査は平成 17 年 11 月に川本町立南小学校体育館建設予定地の埋蔵文化財の所在に対して学校教育担当から協議があった。開発区域は周知の埋蔵文化財包蔵地があることから、予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が広がることが予想され、開発する際には記録保存のための発掘調査が必要であると回答した。試掘調査を行った後協議することとして、平成 16 年 12 月 20 日に深谷市教育委員会が試掘調査を実施した。本調査は、深谷市教育委員会が深谷市長新井家光から委託を受け、現地調査を平成 17 年 2 月 22 日～3 月 15 日まで行った。

2、遺跡の位置

上本田遺跡は、深谷市南部川本地域に所在し、比企丘陵最北部の江南台地上に位置する。北側は荒川により形成された河岸段丘が広がっており、遺跡とは比高差10mの崖線によって区画されている。南側は対照的に緩やかな傾斜で吉野川が形成した沖積低地にいたる。遺跡はこの台地頂部の平坦面を中心に東西800m、南北300mの東西に長い範囲に広がりを見せている。

本報告以外の発掘調査としては、昭和61年度に行われた1次調査区で縄文時代中期の竪穴住居が50軒発見され、この地域の縄文時代中期の拠点集落として注目された。また、平成14年度に実施した7次調査区では、台地南斜面下部で平安時代の掘立柱建物が確認され、台地上部の平坦面との時代による遺跡立地の違いが認識できた。

3、調査区別の概要

a. 2次調査の遺構と遺物

調査区は東西200mにわたり、2m幅で調査された。検出された遺構は、東西に細長い調査区の西側に集中して検出され、遺跡東側の広がりを確認した。縄文時代の住居跡3軒(49号住居～51号住居)、土坑9基(42号土坑～50号土坑)、埋壘1基(1号埋壘)、包含層、近世以降の溝1条である。主な出土遺物は縄文土器(諸磯b式土器、加曾利E式土器、堀ノ内式土器)、石器(石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石)である。

b. 3次調査の遺構と遺物

調査区は東西52m、南北26mの長方形の範囲で行った。遺構は、調査区西側に集中して検出され、縄文時代の住居跡12軒(52号住居～63号住居)、土坑22基(51号土坑～72号土坑)、埋壘1基(1号埋壘)、集石3基(4号集石～9号集石)、埋壘1基(2号埋壘)、包含層、近世土坑4基(73号土坑～76号土坑)、溝1条である。主な出土遺物は縄文土器(勝坂式土器、加曾利E式土器、堀ノ内式土器)、石器(石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石)、土製品(耳栓、須恵器(坏)、近世(カワラケ、鉄鍋、平瓦、古銭)である。

c. 4次調査の遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の住居跡2軒(64号住居～65号住居)、土坑1基(77号土坑)、集石4基(10号集石～13号集石)、包含層である。主な出土遺物は縄文土器(勝坂式土器、加曾利E式土器)、石器(石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石)、土製品(土偶)である。

d. 5次調査の遺構と遺物

5次調査区はやや東南に向けて傾斜しており遺構が検出したのは平坦面に限られる。検出された遺構は、縄文時代の住居跡2軒(66号住居～67号住居)、土坑4基(78号土坑～82号土坑)、包含層、溝1条である。主な出土遺物は縄文土器(勝坂式土器、加曾利E式土器)、石器(石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、石棒)である。

e. 6次調査の遺構と遺物

検出された遺構は埋壘1基(3号埋壘)と包含層である。主な出土遺物は縄文土器(加曾利E式土器)、石器(打製石斧、磨石)が出土する。

f. 8次調査の遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の集石2基(14号集石～15号集石)と包含層である。旧川本南中学校建設時の境乱がひどく包含層自体の遺存状態は悪かった。主な出土遺物は縄文土器(諸磯b式土器、加曾利E式土器)と石器(石鏃、打製石斧、凹石)である。

4、縄文時代の遺構

今回報告する縄文時代の遺構は、住居18軒、土坑34基、集石12基、埋壘3基である。遺構番号は調査時毎につけていたため、整理時再度付け直したために、調査時の番号と本報告書の番号は異なっている。

a. 住居

今回の発掘調査では、1次調査区よりの3次調査区西側を中心に2次～5次調査区から合計18軒検出された。6次、8次調査区では検出されなかった。

住居の形態は、円形、楕円形、隅丸方形、柄鏡型に分けられる。全形が明らかな住居は円形10軒、楕円形4軒、隅丸方形1軒、柄鏡型1軒となる。

規模から見ると、長軸が5～6m規模のものが多く、4次調査区から検出された64号、65号住居は3.2～4.0

mと規模が小さい。3次調査区の住居は重複するものが多く、平面形が明らかにならなかった6号住居のようなものもある。

周溝は5次調査区のもの全周巡るが、他地区のものには周溝は見られない。柱穴は5~7本のものが多く、64号、65号住居のような、小型のものには柱穴は見られない。

炉は石囲炉、埋甕炉、地床炉に分けられ、炉の検出された13軒のうち、7軒が石囲炉と多い。また、62号住居の埋甕炉は灰石を抜き取った小穴が確認され、かつては石囲埋甕炉であったと推定される。石囲炉は河原石で三辺を囲うものが多く、石囲い内に埋甕を埋設する石囲埋甕炉も3例ある。また、炉に近接して集石を持つものが2例あり、54号住居では炉に接する配石とやや離れて分布する集石遺構が存在するのは屋内集石の機能を示唆すると考えられる。なお、住居帯周縁に分布する51号・64号65号住居の炉は小型の地床炉で、住居としての短期間の存続、用途を示すものと考えられる。

埋甕は2軒で住居南壁際から検出された。他に伏甕が3軒で検出されるが67号住居では石棒と近接して壁際から出土する。

b. 土坑

土坑は、計34基が検出される。平面形は円形ものが主流で、断面形が逆台形をした立ち上がりがしっかりとしたA類と皿状のB類に分けられる。A類としては、42号、49号、71号、74号土坑などで、住居帯の周縁から単独で検出される。1次調査区でも33号土坑程度であり、検出例は少ない。B類については遺構群の分布と同様に検出されるが、遺物出土例も少なく、縄文時代に特定できないものや、遺構としての認識が難しいものも含まれる。

c. 集石

集石は住居帯の周辺から12基が検出される。径1m程度の範囲に破砕礫が集中するものと広範囲に礫が散在するものに大別される。このほかに屋内集石炉を有する住居が2軒検出される。出土した遺物としては少量の土器と石器（ルグー、磨製石斧、打製石斧、礫器、磨石、敲石、凹石、砥石）が出土し、10号集石から土製丹塗が出土する。

d. 埋甕

埋甕は、3基検出されている。1号埋甕は2次調査区の51号住居東側から検出され、これまでに出した縄文時代の遺構の中で最も東側に位置する。2号埋甕は52号住居の東5mから単独で検出された。胴部上半の大型の深鉢が逆位に埋設されていた。掘り方は不明瞭である。3号埋甕は6次調査区南側から単独で検出された。深鉢上半部が上から押しつぶされた状態で検出された。

5. 縄文時代の遺物

縄文時代の遺物は多量の土器と他に石器、土製品、特殊土器がある。

a. 土器

今回出土した土器は縄文時代中期に属するものが多く、勝坂式から加曾利E式終末期にかけてのものである。ここで土器の大別の特徴を示し、遺構別の変遷について記述を行う。

①勝坂式土器

この時期の遺構はなく、加曾利E式期の遺構に混在して出土する。

②加曾利E式土器初頭段階

キャリバー形土器は頸部に無文帯を残し、胴部に懸垂隆帯、沈線文が垂下する深鉢、地文に摺糸文を多用する。本群の土器は3号埋甕が当時期にあたる。大きな波状突起を有するもので北関東系の影響を色濃く受けているものである。54号住居には破片がやや目立ち、他は包含層や各遺構に少量の破片が出土する。

③加曾利E式土器前半の土器群

キャリバー形土器は頸部に無文帯を残し、胴部に懸垂隆帯、沈線文が垂下する深鉢を特徴とする。地文は縄文が主体となる。連弧文土器は、上下の文様帯が区画され、弧線が施される。また、胴部上半に文様が施されローパン玉状に胴部中位でくの字状に屈曲し、口縁部が外反する鉢形土器が出現する。

1次調査区ではこの時期の住居が最も多く検出されているが、本報告では54号住居、66号住居、67号住居が該当する。54号と67号はこの段階でも古い時期の土器群で各種把手を配する深鉢を有し、66号より新しい時期で胴部の文様帯が沈線施文のものが増加する。

④加曾利E式土器後半の土器群

キャリバー形土器は頸部無文帯が省略され、胴部に磨り消し縄文帯が垂下する深鉢を特徴とする。連弧文土器

は範型がくずれ、上下の文様帯が一体化し、沈線も弧線に限らず、渦巻き状となるものが中心となる。重弧文系土器が一部伴出する。本群土器を出土する住居跡は、11軒と今回報告する住居の大半を占める。多くの土坑や集石もこの時期のものが主体と考えられる。

⑤加曾利正式土器終末の土器群

キャリバー形土器で口縁部文様帯が消失し、胴部に磨り消し縄文による渦巻き文などが施される深鉢に代表される。本群土器を出土する住居跡は、52号住居で住居の平面形は枡鏡形を呈する。竈跡は方形の石組で、他の住居群からやや東にはなれて単独に分布する。

⑥その他の土器

前期中葉の黒浜式土器が2・3次調査区から検出された。胎土中に繊維を含む。前期後半の諸磯b式土器は2次調査区の51号住居や8次調査区から検出される。出土する土器はキャリバー型を呈し、浮線文を巡らす。後期堀ノ内式土器は2次、3次調査区から小破片が出土する。安行式土器も2次調査区から出土し、工字文を有する土器が遺跡東側から出土する。

b. 石器

出土した石器は、総計で267点ある。器種別に見ると石鏃、尖頭器、石錐、磨製石斧、打製石斧、スクレイパー、礫器、石皿、凹石、石棒、磨石、砥石、スタンプ形石器等である。この他に剥片や破片、焼礫や礫片が数千点出土しているが、中に剥離痕を有するが石器として認定できない礫破片が多量出土する。

石鏃は27点あり、素材は黒曜石、チャート、凝灰岩がみられる。凹基のもの、平基のもの、丸みを帯びるもの等がある。5次包含層から黒曜石の局部磨製石鏃が出土し、8次包含層の有茎石鏃は優美な形態を呈していて、縄文時代晩期から弥生時代にかけて見られる特徴を有している。尖頭器は、先端部のみの残存である。

磨製石斧は17点出土し、定角型のものや乳棒状のものに分けられる。全体に欠損品が多く、刃部破片等の小破片が多い。局部磨製石斧が出土することと楔状の細身で小型のもの(189, 193)が特徴である。

打製石斧は151点出土した。形態からみると楔型と短冊形が主体で、分銅型がいくらか出土する。また粗い調整加工による小形品が目立ち、大型のものは欠損品が多い。

スクレイパーは剥片の周辺を粗く打ち欠いた2側縁加工のものや裏面に自然面を有する円形の剥片の周縁加工したものがある。円形の礫剥片の周縁を打ち欠いたカドスルペーは特徴的である。

礫器は11点出土しているが、礫の一端を軽く打ち欠いたようなものが多い。また礫に分類した中にも剥離痕を残すものがあるが、人工的なものと判断できないため除外した。局部磨製石斧とともに古い様相を示す石器であるがここでは縄文時代中期の住居に伴出するものと考えられる。

石皿は9点で、緑泥片岩製のものや多孔質安山岩を素材とするものがあり、住居の石囲い等に転用されるものがある。裏面周縁に凹穴を有している。

凹石は12点で、板状の緑泥片岩に多くの穴が穿たれたものと石鏃形を呈する磨り石の両面の中央に一对の穴を穿つものもある。

石棒は66号住居から出土した安山岩製の大型品で両端を欠損するが、割れ面は磨られていて再生されている。復元すると長さ1mを越す大型品になるものと推定される。

敲石は、楕円形礫の両端側縁に敲打痕を有するもので8点出土した。磨石や台石は明顯に使用痕を残すものだけを抽出した。砥石は11点出土した。

剥片・破片は約1000点が出土し、そのうちの1/4が黒曜石で残りはチャートが主体となる。

c. 特殊な土器(有孔鐔付土器・器台・網代痕を有する土器)

有孔鐔付土器は合計9点あり、鐔のみの小破片が多く、全形のわかるものはない。胴部に隆帯が施され縄文施文されるものや把手が配される薄手のものや鐔の形状が受け状となるものがある。

器台は、20点出土する。径15~20cm前後のものが主体的で、5cm前後の小型品もある。小破片が多く不明な点が多いが、おぼろげな体部に二個一對の円孔が二単位配される。文様を有するものは1点だけで縄文が器面に施される小型品である。側縁部がやや外傾するものや、脚部が内湾して短く立ち上がり上面は摩擦するもの、体部が直線的に立ち上がり上面は光沢を有するように摩擦するものなどがある。

網代痕を有する土器は5点確認されている。底面全体に網代が残るものより、周辺に残るものも多く、成形時の痕跡を残したものと想定される。

d. 土製品

土製品としては土偶、耳栓、手づくね土器、土製円盤が出土している

土偶は胴の一部分と考えられ、扁平な筒状を呈する。表裏面には細い沈線で渦巻き状に施文がされる。

耳栓は3号住居から2点出土する。鼓形をした小型品で端部には両面に刺突文が施される。

土製円盤は、3次で17点、4次で9点、5次で18点の計44点が9軒の住居を中心に出土した。形状から見る

と、円形、楕円形、方形、長方形に分けられる。円形が18点、方形のものが17点と最も多く、楕円形8点、長方形が1点である。周縁の研磨状況を見ると、直線的な研磨が多く見られ、数回研磨したものが角がとれ、丸みを帯びようになるものと観察され、形状には特別な差異があるとは考えられない。大きさは4.7cm、40gを最大とし、4.0cm、30gの中型品と3.0cm、15g前後の小型品におおむね分けられる。出土した土製円盤の周縁は、ほとんどのものが全周から3/4の範囲が研磨されているが、中には研磨痕が明瞭ではないものが認められる。出土状態は、他の土器破片と混在して出土しており、土製円盤だけが集中する遺構や個所は見られない。なお用いられた土器破片は、無文の浅鉢が15点と目立つ。

6. 近世・近代の遺構と遺物

近世の土坑が4基、時期が特定できない溝が4条検出されている。1号近世土坑は長方形を呈し、覆土中に鉄鍋、平瓦を出土する。鉄鍋は取り上げ後破砕し復元は困難であった。2号近世土坑は調査区際で検出され、寛永通宝が木製容器に入れられていたと考えられる。近世の土坑は覆土中にローム粒を多量に混入することから一時期に埋め戻された墓坑などが想定される。近世に限定されなく、近代にかけての遺構と想定される溝が各地区で検出されている。地境や耕作によるものと考えられるが詳細は不明である。

なお、このまかに須恵器の底部破片が出土した。小破片のため詳細は不明だが8世紀後半のものと推定される。

7. まとめ

上本田遺跡の発掘調査は、これまでに8回の調査が行われている。ここでは、これまでに行われた調査をふまえて、縄文時代中期の上本田遺跡の様相を考えてみたい。

これまでに検出された住居の数は68軒とこの地域での調査例としては群を抜いている。住居は帯状に分布するがこれまでのところ環状集落となることは確認できていない。

住居の形態は、円形、楕円形、隅丸方形に分類できる。全形の明らかな住居跡の比率でいくと円形が22軒、楕円形が13軒、隅丸方形15軒、栞筒形1軒である。規模から見ると11号住居跡が長軸9mを測り最大で、平均すると長軸が5～6m前後のものが主体で最小の規模のものは65号住居の長軸3.2mである。周溝は約半数の住居跡で確認され、全周する例が23例見られた。柱穴は4～7本のものが多く、隅丸方形のものは4本、円形のものは5～7本あるが、64号、65号住居のような、小型の住居には柱穴は見られない。拡張住居は4軒確認されるが住居帯の周縁には大型住居が少ないせいかな今回の報告には見られない。

炉は石囲炉、埋甕炉、地床炉に分けられる。炉の検出された49軒のうち31例が石囲炉で、主体を占める。地床炉や埋甕炉に分類した炉も一部が石が残るものや石を抜き取った小穴が観察されるものが多く、本遺跡で検出された住居の炉の大半は石囲炉であったようである。石囲炉は、大形礫で方形に組んだ石組炉と河原礫で囲こる石囲炉に分けられる。石囲炉は河原石で三辺を囲うものが多く、石囲い中に埋甕を埋設する石囲埋甕炉も7例ある。また、炉に近接して集石を持つものが8軒あり、屋外の集石が15基と少ないこと比べて特徴的である。54号住居では炉に接する配石が検出される。埋甕は10軒で確認され、おおむね住居跡南側の壁際から検出される。

土坑は、計75基が検出される。平面形は円形のものが主流で、断面形が逆台形をした立ち上がりがありしっかりとしたA類は9基と少なく、33号、42号、49号、71号、74号土坑が該当する。A類は住居群の周縁から検出されるものが多い。B類は立ち上がり不明瞭な断面皿状のものが遺構群の分布と重複して検出されるが、遺物出土例も少なく、自然の営為によるものも含まれる。なお、73～76号土坑は近世以降のものである。

集石は住居群に近接して13基が検出される。遺物は土器や石器が少量混在する。時期は住居と同じく縄文時代中期後半に属するものと推定される。他に住居内の炉に隣接する屋内集石が8軒の住居から検出された。屋内集石炉と、屋外炉とは機能の差があるものと考えられる。

屋外埋甕は帯状の住居群から離れて、周縁から単独で検出される。2号埋甕は大型深鉢の胴部上半が逆位で検出され、3号埋甕は北関東系の土器が壊れた状態で検出された。

縄文時代の遺物は土器、石器、土製品、特殊土器等がある。縄文土器は中期後半に属するものが大半であるが堀ノ内式と安行式土器の破片が少量出土する。土製品には、土偶、耳栓、ミニチュア土器、手づね土器、土製円盤がある。有孔銅付土器、器台、台付土器がこれまでの調査で見つかっており、他の遺跡の土器組成から見ると目立つ存在といえる。網代痕を有する土器も多く、底面全体に網代が残るものより、周辺に残るものが多く、成形後底面を磨り消したことが想定される。

本報告では、縄文時代中期の大規模集落の一部が1次調査区に続き検出された。遺跡は勝坂期後半から中期末葉まで集落は継続しており、いわゆる加曾利EⅡ～Ⅲ式期が主体となる。周辺には舟山遺跡、寄居町牛無具和遺跡、嵐山町五領台遺跡など大規模となる集落跡が距離を置いて点在するが、周辺の春日丘工業団地などの広域調査では縄文時代中期の集落はほとんど見つからず、核となる遺跡に集中する様子がうかがえる。出土土器は、地域独自に発達した文様が主体的で、規則に縛られない自由奔放な施文を行っている。中でも連弧文系土器は独特の文様変遷を遂げており、この地域の象徴的な土器といえる。

縄文時代中期の集落はこれまでの周辺調査が進んできたことにより1次調査区に遺構が集中することが判明してきている。また、試験調査の結果や大地平坦面の広がりから見て、東側の遺跡の分布の限界は、51号住居、1号埋甕や8次調査区での集石遺構の分布が限界と推定される。しかし南東側の現在の上本田グランドからは以前から多くの石器・土器が採集されることからその広がりを再確認すべきかもしれない。遺跡西端の砂利採集地では多くの縄文土器がかつて採集されたとのことなので、今後の調査で集落の広がりが解明されると考えられる。

参考文献

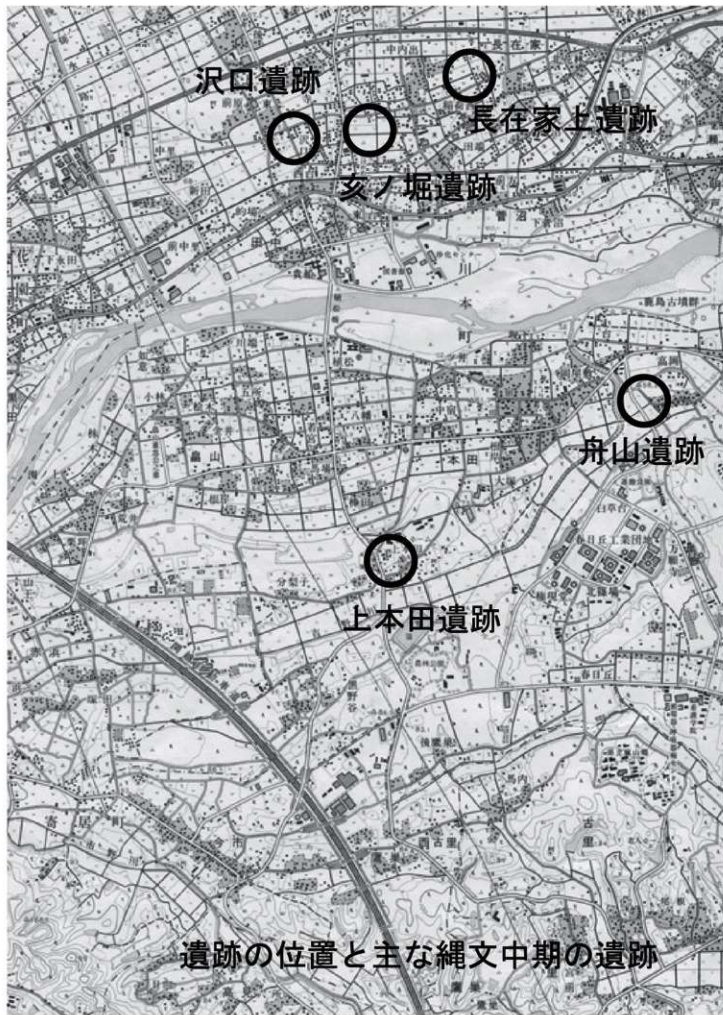
川本町遺跡調査会「上本田遺跡1」2000川本町遺跡調査会報告書第5集

川本町遺跡調査会「本田城・上本田遺跡（7次調査）」2003川本町遺跡調査会報告書第9集

上本田遺跡のこれまでの調査歴

調査区	対象地	調査主体	調査費	調査開始日	調査終了日	調査面積	調査原因	遺跡の種類	遺跡の時期	報告書発行
1次調査	本田4915-1	川本町遺跡調査会 村松篤		1986.10.15	1987.04.20	3800㎡	老人ホーム建設	集落	縄文時代中期/近世	川本町遺跡調査会第5集(2000.12.25)
2次調査	本田4762地	川本町遺跡調査会 村松篤		1988.11.22	1988.12.26	1320㎡	歩道整備	集落	縄文時代中期	本報告書
3次調査	本田4914-1	川本町遺跡調査会 村松篤		1992.11.05	1993.02.27	1250㎡	商店売所	集落	縄文時代中期/近世	本報告書
4次調査	本田4914-3	川本町遺跡調査会 村松篤		1994.09.13	1994.11.04	500㎡	ダイオキシンセンター	集落	縄文時代中期	本報告書
5次調査	本田4917-24	川本町遺跡調査会 村松篤		1997.01.27	1997.02.14	500㎡	工場建設	集落	縄文時代中期	本報告書
6次調査	本田4917-34	川本町教育委員会 村松篤		2000.04.06	2000.04.12	86㎡	住宅建設	集落	縄文時代中期	本報告書
7次調査	本田4962	川本町遺跡調査会 村松篤		2003.06.26	2003.07.08	300㎡	道路整備	集落	奈良平安時代	川本町遺跡調査会第9集(2003.08.29)
8次調査	本田4988-1	栗谷町教育委員会 村松篤、轟下島市郎		2006.02.22	2006.03.15	1500㎡	体育館建設	集落	縄文時代中期	本報告書

3次建築0057土坑	概文	調査区東西に位置し、8号土坑と並ぶ。(旧2次2号土坑)	円形	5.00	4.90	0.12	—	—	遺物無し
3次建築0058土坑	概文	調査区西側に位置し、7号土坑と並ぶ。(旧2次2号土坑)	円形	2.00	2.00	0.12	—	—	遺物無し
3次建築0059土坑	概文	調査区西側に位置し、1号土坑と並ぶ。(旧2次2号土坑)	円形	1.08	1.00	0.23	—	—	遺物無し
3次建築0060土坑	概文	調査区中央南側に11・14号土坑と並んで検出される。断面は逆台形を呈する。(旧2次10号土坑)	楕円形	1.80	1.32	0.49	—	—	遺物無し
3次建築0061土坑	概文	調査区中央南側に11・10号土坑と並んで検出される。断面は逆台形を呈する。(旧2次10号土坑)	楕円形	1.55	1.25	0.13	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0062土坑	概文	調査区西側にあり楕円形の土坑に方形の土坑が重なりしたような形状を呈する。断面は逆台形を呈する。(旧2次7号土坑)	不整形	1.90	1.00	0.35	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0063土坑	概文	調査区北西側に位置し、4号土坑と隣接する。楕円形を呈し、断面は逆台形となる。(旧2次1号土坑)	楕円形	1.74	1.00	0.35	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0064土坑	概文	調査区南東側に検出され、南側に広がり、1/2を調査した。(旧2次14号土坑)	方形	1.40	0.70	0.22	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0065土坑	概文	7号住居の南に検出された。断面は逆台形を呈する。(旧2次15号土坑)	円形	0.78	0.79	0.82	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0066土坑	概文	8号住居の南側に位置する。(旧2次18号土坑)	円形	0.80	0.75	0.20	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0067土坑	概文	調査区西側、住居に囲まれた位置で検出。断面は逆台形を呈する(旧2次17号土坑)	円形	1.25	1.05	0.13	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0068土坑	概文	調査区北西側から検出され、19号土坑と並んで検出された。(旧2次17号土坑)	円形	0.90	0.88	0.30	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0069土坑	概文	調査区北西側から検出され、北側は調査区外に広がり、1/2を調査した。(旧2次19号土坑)	円形	1.35	0.80	0.15	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0070土坑	概文	調査区北西側から検出され、北側は調査区外に広がり、1/3を調査した。(旧2次20号土坑)	円形	0.14	0.10	0.20	—	—	遺物無し
3次建築0071土坑	概文	4号住居の南に検出される。断面は逆台形となる。(旧2次21号土坑)	円形	1.45	1.45	0.33	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0072土坑	概文	4号住居の南に隣接する(旧2次22号土坑)	方形	0.70	0.55	0.17	—	—	遺物無し
3次建築0073土坑	近況	調査区より、8号住居の南側に位置する。長方形を呈し崩壊したのや状となっており、遺物はロームを多数含む。覆土から鉄線、瓦片が出土する。(旧2次23号土坑)	長方形	1.55	0.90	0.45	—	—	鉄線、瓦片 約79・古銭(永通銭)14
3次建築0074土坑	近況	調査区より、1号住居の南側に位置する。長方形を呈し、覆土にロームが出土する。(旧2次24号土坑)	長方形	2.00	1.00	0.20	—	—	遺物なし
3次建築0075土坑	近況	調査区より、1号住居の北側に位置する。壁は逆台形を呈し、覆土にはロームが多数含まれる。(旧2次25号土坑)	長方形	1.12	0.70	0.40	—	—	遺物なし
3次建築0076土坑	概文	調査区西側にあり、深い溝から検出される。なだらかな土壌に覆土が検出される。(旧2次26号土坑)	円形	1.18	1.32	0.35	—	—	遺物無し
3次建築0077土坑	概文	調査区西側に位置し、円形を呈する。産廃置場ややぐら等の、黒色土を覆土とし、覆土中に土器片を多数含む。(旧2次27号土坑)	円形	1.14	1.24	0.27	—	—	土器(加賀利E)、石器(打製石片)
5次建築0078土坑	概文	8号住居の西側に調査区外から検出。円形を呈し、断面は逆台形を呈する。覆土は少量。(旧2次28号土坑)	円形	1.00	1.00	0.18	—	—	土器(加賀利E)
5次建築0079土坑	概文	調査区北側にあり、円形を呈する。(旧2次4号土坑)	円形	1.15	0.85	0.20	—	—	遺物無し
5次建築0080土坑	概文	円形を呈し、覆土中に炭化粒を多数含む。土器片を多数出土する。(旧2次5号土坑)	円形	1.15	1.15	0.30	—	—	土器(加賀利E)
5次建築0081土坑	概文	1号倉庫の南で調査区中央に位置する。円形を呈し、直状の断面を呈する。少量の炭粒が出土する。(旧2次6号土坑)	円形	1.00	1.15	0.20	—	—	土器(加賀利E)なし
6次建築0082土坑	概文	埋没の深さ0.7mで掘削し、柱状を呈する。(旧2次1号土坑)	円形	0.40	0.40	0.30	—	—	土器(加賀利E)
2次建築0005土坑	近況	長さ2.3mを調査し埋没は約2mを呈し、断面は逆台形を呈する。(旧2次1号土坑)	—	—	—	—	—	土器(加賀利E)	
2次建築0006土坑	近況	調査区西側の住居跡の南側に検出され、明確でない同輪の溝が物も検出されてきて、後の検討と考えられる	—	—	—	—	—	土器(加賀利E)	
5次建築0007土坑	概文	調査区東南向に連続的に掘削し、20.7mを調査した。断面は逆台形を呈する(旧2次7号土坑)	—	20.7	0.80	0.60	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
3次建築0008黒石	概文	調査区北東で単独に検出された。円形の掘り方に145点の破砕土器が検出する(旧2次8号黒石)	円形	0.50	0.40	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
3次建築0009黒石	概文	調査区北東で単独に検出された。円形の掘り方に破砕土器21点が検出する(旧2次8号黒石)	円形	0.40	0.40	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
3次建築0010黒石	概文	調査区北東で単独に検出された。円形の掘り方に破砕土器18点が検出する(旧2次8号黒石)	円形	0.40	0.30	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
3次建築0011黒石	概文	調査区北東の1号倉庫の南に検出される。0.1mの範囲から方形に集積したもので、計79点の破砕土器で構成される。(旧2次8号黒石)	方形	1.02	1.02	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1、磨石1
4次建築0011黒石	概文	調査区南東側の1号倉庫の南に隣接して検出される。径0.5mの範囲に集積したもので、計35点の破砕土器で構成される。下部に炭化粒を多く含む(旧2次8号黒石)	円形	0.45	0.50	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
4次建築0012黒石	概文	調査区南東側の1号倉庫の南に隣接して検出される。径0.8mの範囲に散在し分布して検出される。計70点の破砕土器で構成される(旧2次8号黒石)	楕円形	0.80	0.80	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1、石片1
4次建築0013黒石	概文	調査区北東で単独に検出される。1号倉庫の南に落ち込むように30点の線が出土する。(旧2次8号黒石)	—	2.75	1.70	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1、磨石1
8次建築0014黒石	概文	調査区南側、約0.9mの範囲に30点の線が散在して検出される。中心径0.3mの範囲に線が集中する。掘り込みは検出されなし。(旧2次8号黒石)	楕円形	0.90	0.70	—	—	—	土器(加賀利E)石器(打製石片、磨石)1
5次建築0015黒石	概文	調査区北東で中央より南に検出。径0.7mの掘り込み内に径0.5mの範囲に大型の破砕4点が検出されている。破砕土器が上面から出土する(旧2次8号黒石)	円形	0.70	0.70	0.15	—	—	円形で、断面直状を呈する掘り込みあり
2次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(弥生後、加賀利E、縄文I、有孔片土器、1・安房)石器(打製石片、磨石)1、石片1、磨石1
3次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(弥生後、加賀利E、縄文I)、石器(石輪)、漆
4次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(加賀利E、舊布1)土器品(土器内輪)石器(打製石片、磨石)1、磨石1、磨石1、磨石1、磨石1、磨石1、磨石1
5次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(縄文中期)、漆
6次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(弥生後、加賀利E、石輪)石器(石輪、石片)1
8次建築0001包含層	概文	調査区全体から土器・石器・漆が出土	—	—	—	—	—	—	土器(加賀利E)土器品(土器内輪)石器(打製石片、磨石)1、磨石1、磨石1、磨石1、磨石1、磨石1
2次建築0001埋没	概文	調査区北東で埋没される。(旧2次1号埋没)	円形	0.82	0.78	—	—	—	土器(加賀利E)
3次建築0002埋没	概文	調査区北東で埋没される。埋没は不明確である。(旧2次1号埋没)	円形	4.80	4.80	0.23	—	—	土器(加賀利E)
5次建築0003埋没	概文	調査区南側から単独で検出された。塚原1号墓が上から押しつぶされた状態で検出された(旧2次埋没)	円形	0.20	0.25	0.30	—	—	土器(加賀利E)
2次建築0001黒石	概文	調査区北東で単独に検出。調査区中央に位置して約1、両端は調査区外に広がる	楕円形	1.82	1.10	0.30	—	—	土器(加賀利E)





試掘調査区 (1991.2)

1次調査区

3次調査区

4次調査区

6次調査区

5次調査区

上本田

渡辺石英硝子

上 本 田

2次調査区



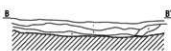
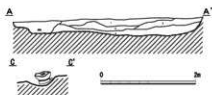
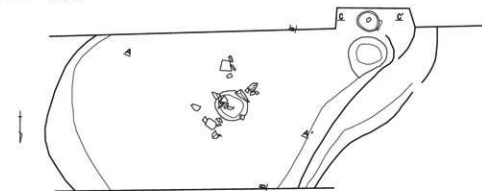
8次調査区

川 本 南 小 学 校

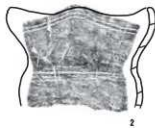
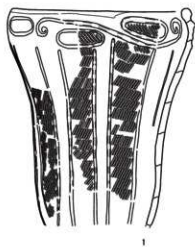
調査区 (1991.6)

試掘調査区 (2006.3)

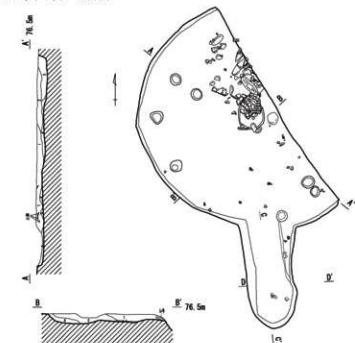
試掘調査区 (1989.)



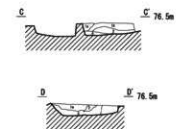
A-A' 1. 土層 2. 土層 3. 土層 4. 土層 5. 土層 6. 土層 7. 土層 8. 土層 9. 土層 10. 土層 11. 土層 12. 土層 13. 土層 14. 土層 15. 土層 16. 土層 17. 土層 18. 土層 19. 土層 20. 土層 21. 土層 22. 土層 23. 土層 24. 土層 25. 土層 26. 土層 27. 土層 28. 土層 29. 土層 30. 土層 31. 土層 32. 土層 33. 土層 34. 土層 35. 土層 36. 土層 37. 土層 38. 土層 39. 土層 40. 土層 41. 土層 42. 土層 43. 土層 44. 土層 45. 土層 46. 土層 47. 土層 48. 土層 49. 土層 50. 土層 51. 土層 52. 土層 53. 土層 54. 土層 55. 土層 56. 土層 57. 土層 58. 土層 59. 土層 60. 土層 61. 土層 62. 土層 63. 土層 64. 土層 65. 土層 66. 土層 67. 土層 68. 土層 69. 土層 70. 土層 71. 土層 72. 土層 73. 土層 74. 土層 75. 土層 76. 土層 77. 土層 78. 土層 79. 土層 80. 土層 81. 土層 82. 土層 83. 土層 84. 土層 85. 土層 86. 土層 87. 土層 88. 土層 89. 土層 90. 土層 91. 土層 92. 土層 93. 土層 94. 土層 95. 土層 96. 土層 97. 土層 98. 土層 99. 土層 100. 土層



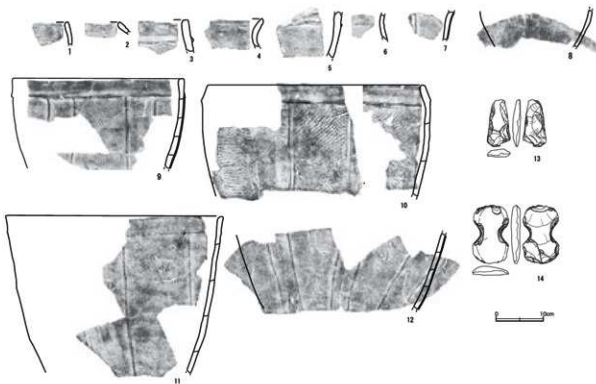
52号住居 00004

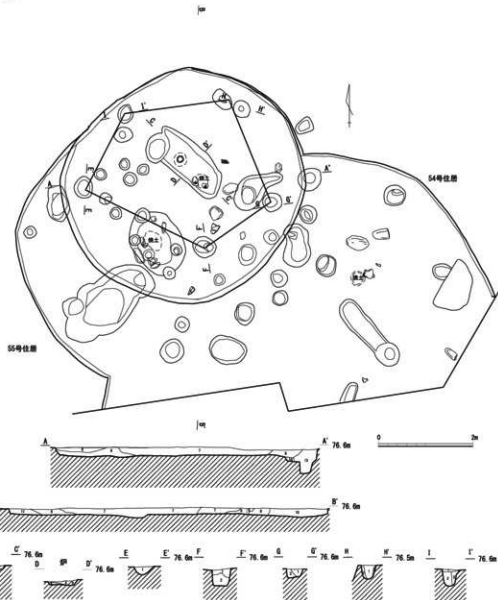


1-4 築地 築地土層 階壇下の中心一山層を穿ち、階壇の中心、
 及び階壇の中心、L・S・V・L・S・V
 5-8 築地 築地土層 階壇下の中心一山層を穿ち、
 及び階壇の中心、L・S・V・L・S・V
 9-11 築地 築地土層 階壇下の中心一山層を穿ち、
 及び階壇の中心、L・S・V・L・S・V

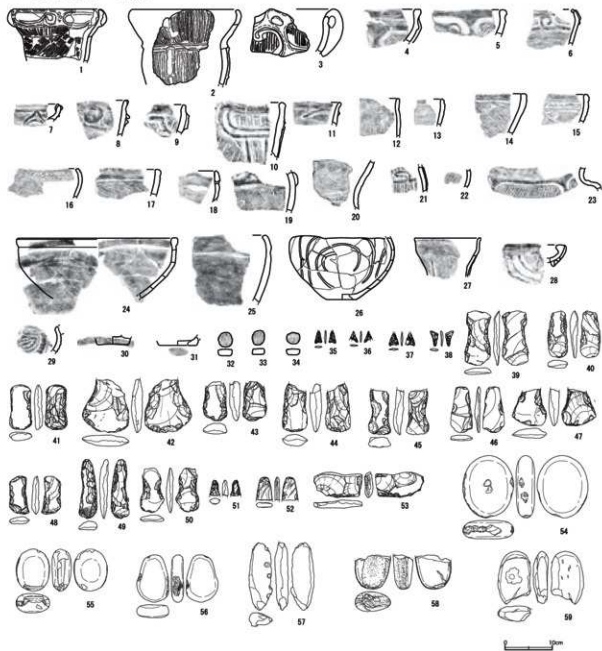


C-D 築地 築地土層 階壇下の中心一山層を穿ち、
 及び階壇の中心、L・S・V・L・S・V
 E-F 築地 築地土層 階壇下の中心一山層を穿ち、
 及び階壇の中心、L・S・V・L・S・V

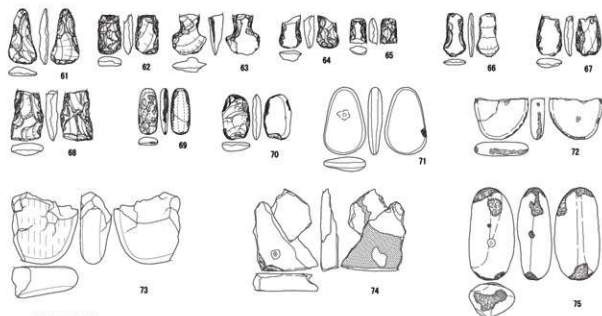
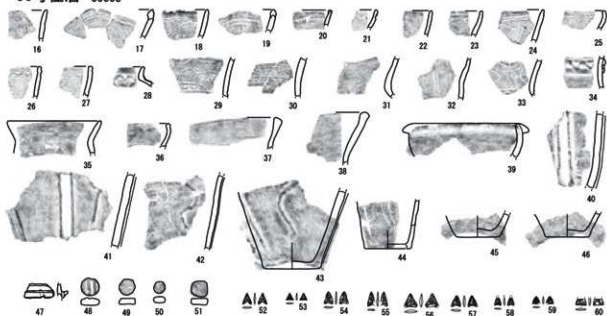




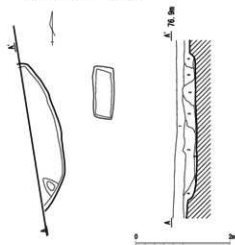
- 53F 築造 土間 土間
 53E 築造 土間 土間
 53D 築造 土間 土間
 53C 築造 土間 土間
 53B 築造 土間 土間
 53A 築造 土間 土間
- 53F 築造 土間 土間
 53E 築造 土間 土間
 53D 築造 土間 土間
 53C 築造 土間 土間
 53B 築造 土間 土間
 53A 築造 土間 土間
- 53F 築造 土間 土間
 53E 築造 土間 土間
 53D 築造 土間 土間
 53C 築造 土間 土間
 53B 築造 土間 土間
 53A 築造 土間 土間
- 53F 築造 土間 土間
 53E 築造 土間 土間
 53D 築造 土間 土間
 53C 築造 土間 土間
 53B 築造 土間 土間
 53A 築造 土間 土間
- 53F 築造 土間 土間
 53E 築造 土間 土間
 53D 築造 土間 土間
 53C 築造 土間 土間
 53B 築造 土間 土間
 53A 築造 土間 土間



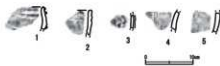
56号住居 00008



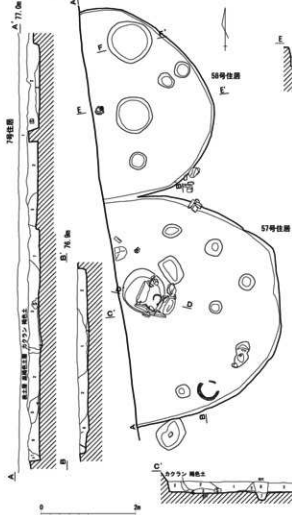
63号住居 00009



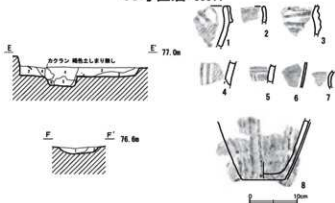
- A-A'
- | | | |
|-----|-------|-------------------------------|
| 第1層 | 黒色土層 | 赤土層、しまり層 |
| 第2層 | 黒褐色土層 | 径1cm次のローム粒を含み、粘土粒を含む、しまり・粘性良好 |
| 第3層 | 暗褐色土層 | 黒色土と赤色土の混成層、しまり・粘性良好 |
| 第4層 | 赤褐色土層 | 径2~3mm次のローム粒を多く含む、しまり・粘性良好 |
| 第5層 | 黄褐色土層 | 径1~2mm次のローム粒を多量に含む、しまり・粘性良好 |



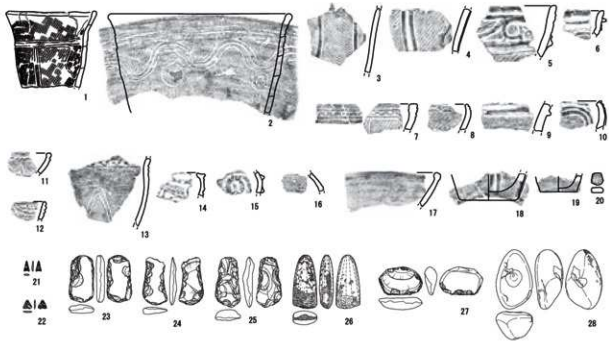
57号住居 00010

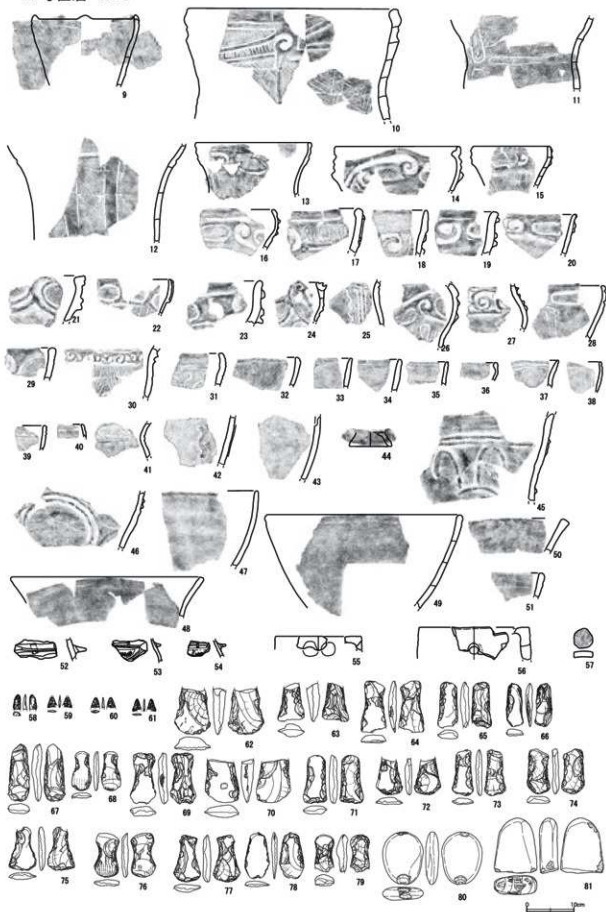


58号住居 00011

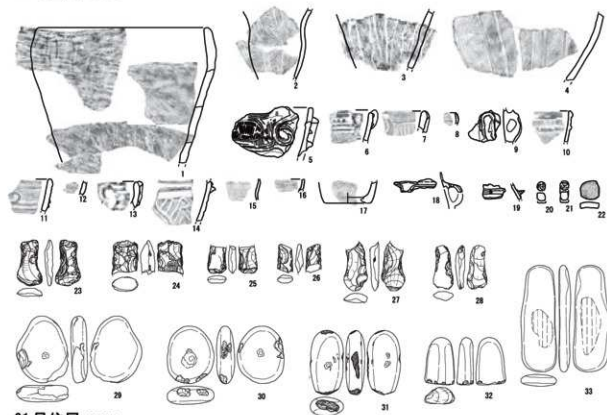


- A-D 築物 築物土層 築物土上層 築物土下層 築物土中層 築物土底層 築物土表層 築物土裏層 築物土側層 築物土頂層 築物土底層 築物土表層 築物土裏層 築物土側層 築物土頂層
- E 築物 築物土層 築物土上層 築物土下層 築物土中層 築物土底層 築物土表層 築物土裏層 築物土側層 築物土頂層
- F 築物 築物土層 築物土上層 築物土下層 築物土中層 築物土底層 築物土表層 築物土裏層 築物土側層 築物土頂層
- G 築物 築物土層 築物土上層 築物土下層 築物土中層 築物土底層 築物土表層 築物土裏層 築物土側層 築物土頂層

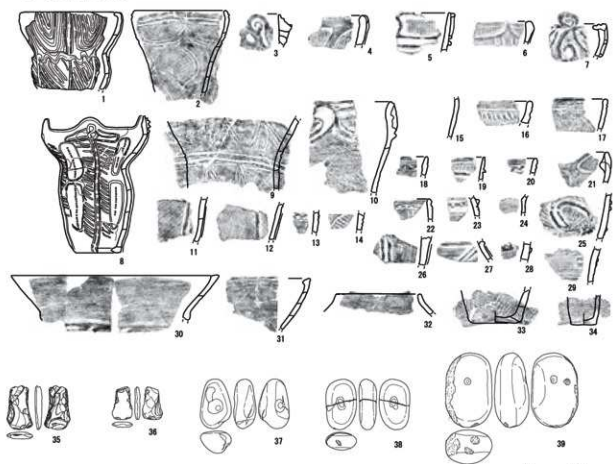




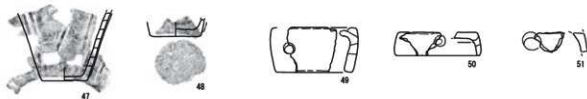
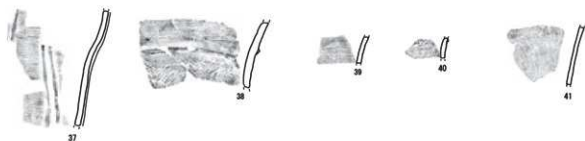
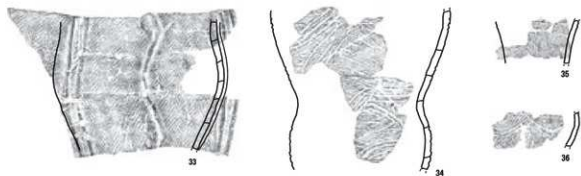
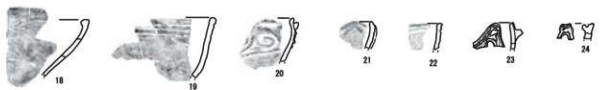
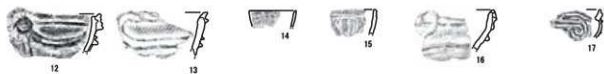
60号住居 00013



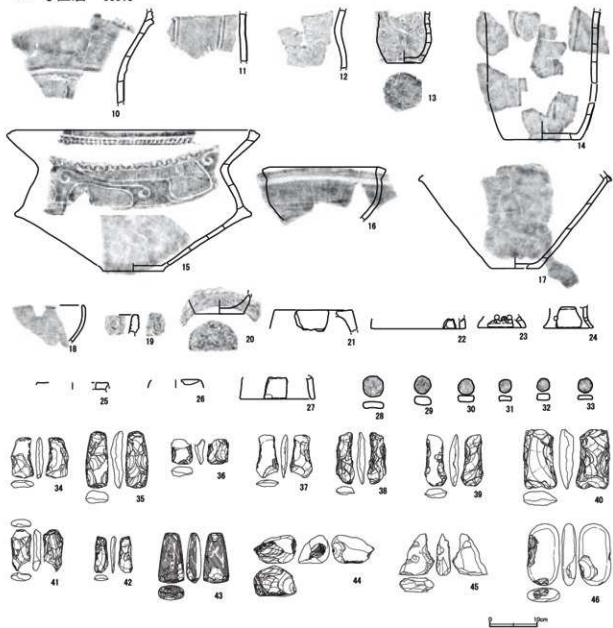
61号住居 00014



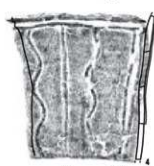
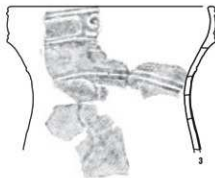
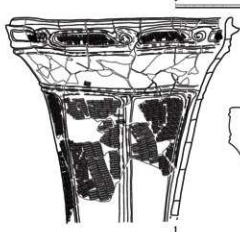
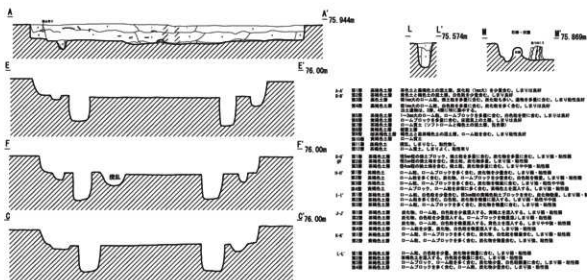
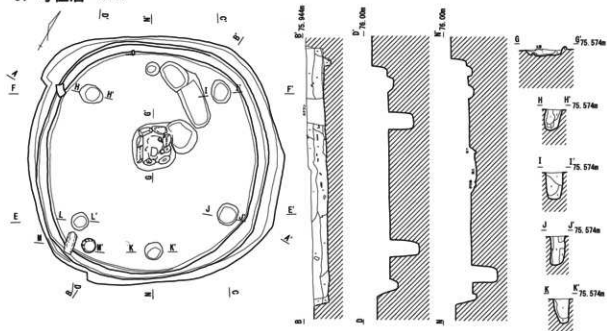
62 号住居 00015



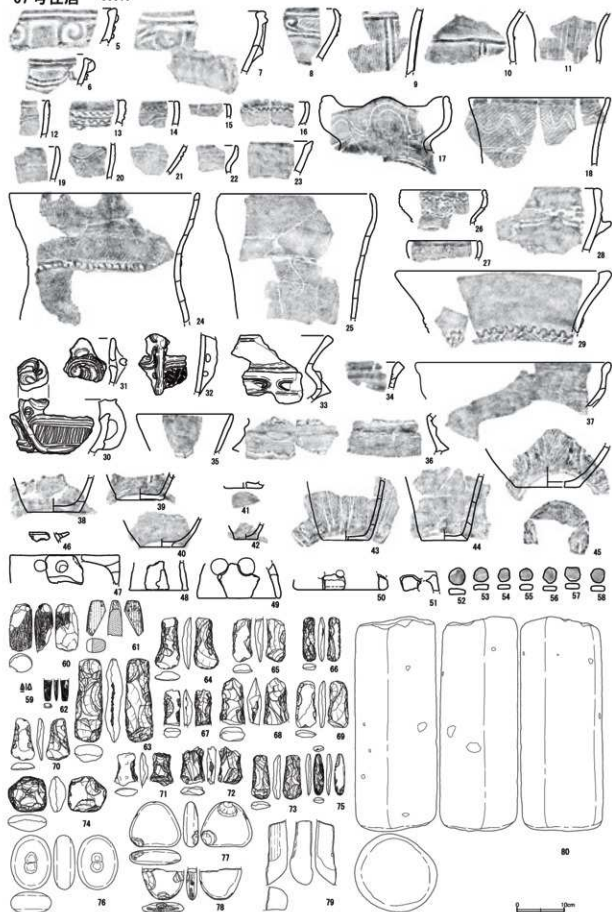
66 号住居 00018



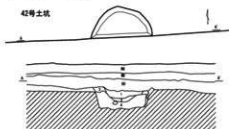
67号住居 00019



67号住居 00019

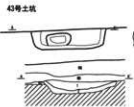


土坑 00020



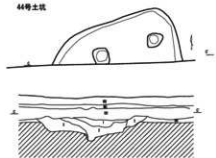
42号土坑

位置 南西角
 形状 半円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.5m
 直径 約1.2m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



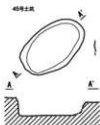
43号土坑

位置 南西角
 形状 長方形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.2m
 長さ 約1.8m
 幅 約0.8m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。

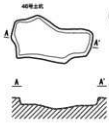


44号土坑

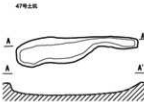
位置 南西角
 形状 不整形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.8m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



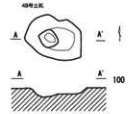
45号土坑



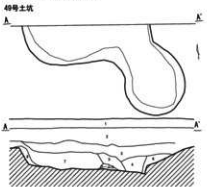
46号土坑



47号土坑

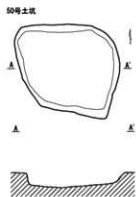


48号土坑



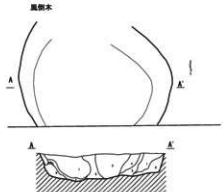
49号土坑

位置 南西角
 形状 不整形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約2.5m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



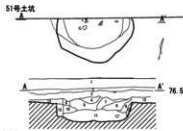
50号土坑

位置 南西角
 形状 正方形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.5m
 長さ 約1.5m
 幅 約1.5m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



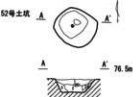
51号土坑

位置 南西角
 形状 不整形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約2.0m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



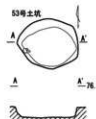
52号土坑

位置 南西角
 形状 円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.2m
 直径 約1.0m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



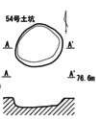
53号土坑

位置 南西角
 形状 円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.0m
 直径 約0.8m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



54号土坑

位置 南西角
 形状 円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.2m
 直径 約1.0m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



55号土坑

位置 南西角
 形状 円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.0m
 直径 約0.8m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



56号土坑

位置 南西角
 形状 不整形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約2.0m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。



57号土坑



58号土坑



59号土坑



60号土坑



61号土坑



62号土坑



63号土坑

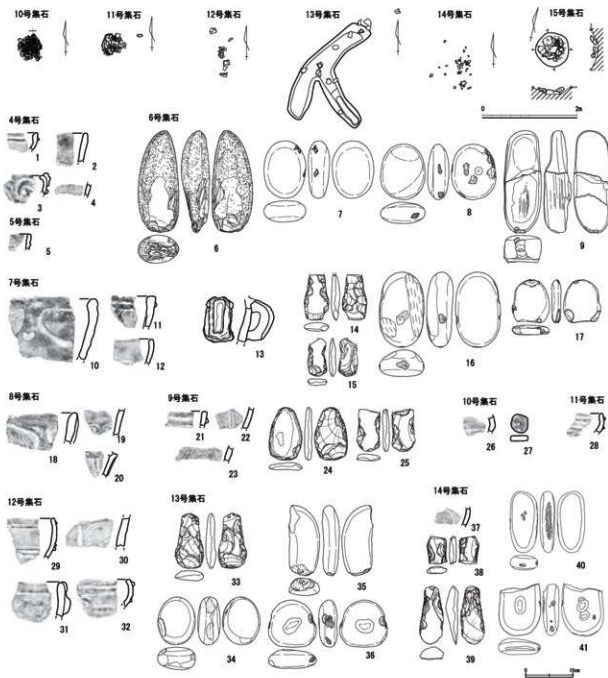
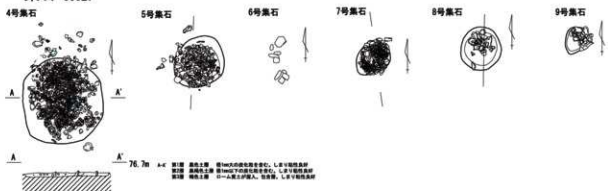


64号土坑

位置 南西角
 形状 円形
 用途 貯水用
 構造 土壁
 高さ 約1.5m
 直径 約1.2m
 備考 土壁は厚さ約0.3mあり、内部は平滑に仕上げられている。

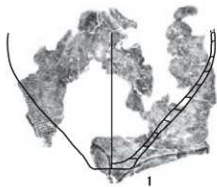


集石 00021



埋壘 00022

1号埋壘



2号埋壘



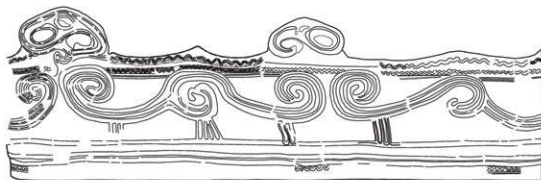
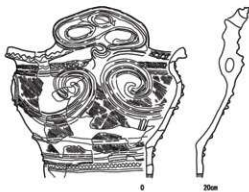
点 1号埋壘 点 2号埋壘



0 2m

剖面 埋壘土層 圖1-2號的0-1號土層多層堆積，L表示埋壘基
 剖面 埋壘土層 埋壘土層0-1號土層多層堆積，L表示埋壘基
 剖面 埋壘土層 0-1號土層多層堆積，L表示埋壘基
 剖面 埋壘土層 0-1號土層多層堆積，L表示埋壘基

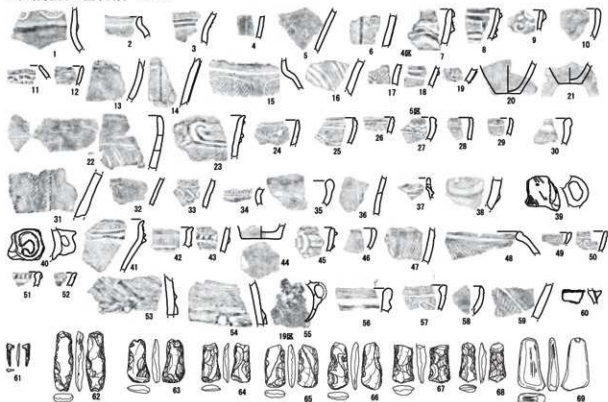
3号埋壘



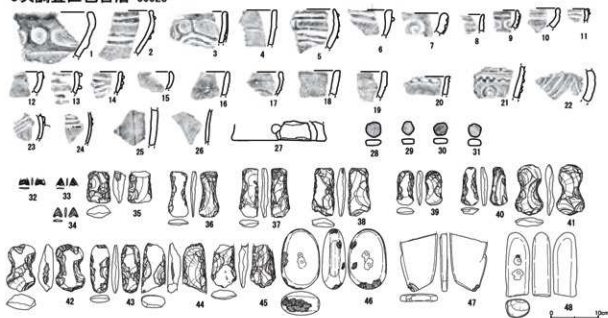
包含層出土前期・後期土器 00023



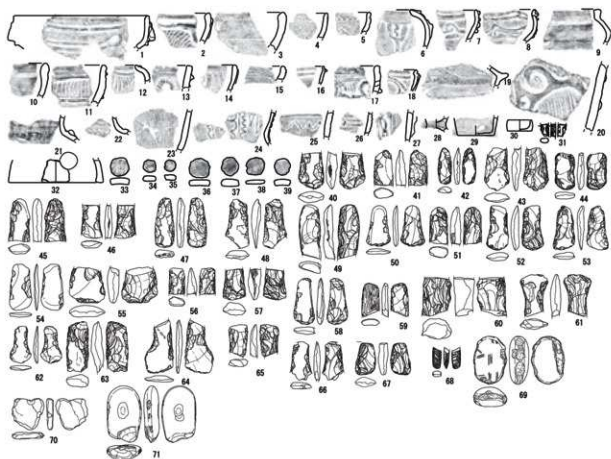
2次調査区包含層 00024



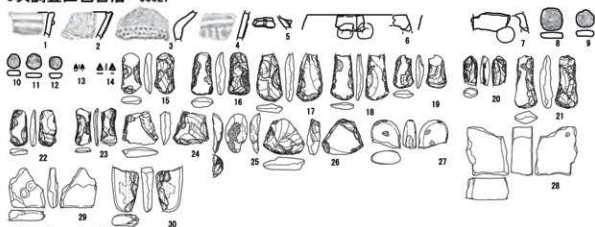
3次調査区包含層 00025



4次調査区包含層 00026



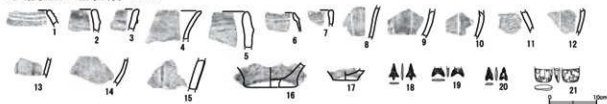
5次調査区包含層 00027



6次調査区包含層 00028



8次調査区包含層 00029



報告書抄録

フリガナ	カミホンダイセキ目						
署名	上本田遺跡目						
新署名	2次～6次、8次調査の記録						
シリーズ	埼玉県岡谷市埋蔵文化財発掘調査報告書					巻次	90
編者名	村松 篤						
編纂機関	岡谷市教育委員会						
所在地	〒366-0823 埼玉県岡谷市本住町17-3 TEL.048-572-9581						
発行日	2007年3月25日						
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4762地	11406	36.12134	139.28497	19881122	1,320	伊達整備
上本田遺跡		13			～19881226		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	竪穴住居3	土器、石器、土製品	大規模集落の一部を調査		
2次			土壇6		大量の土器土器出土		
			縄文前期後期	包含層			
			中近世	溝			
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4914-1	11406	36.12081	139.28442	19921105	1,250	南保育所建設
上本田遺跡		13			～19930227		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	竪穴住居12	土器	大規模集落の一部を調査		
3次			土壇23	石器	大量の土器土器出土		
			黒石3、燧石1	土製品			
			縄文 後期	土器			
			平安時代	須置器			
			中近世	溝、土壇4	1779、古墳		
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4914-1	11406	36.12036	139.28422	19940913	500	グレイズ工場建設
上本田遺跡		13			～19941104		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	竪穴住居2	土器	中期集落の南端を調査		
4次調査			土壇1	石器			
			黒石4	土製品			
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4917-2地	11406	36.11975	139.28380	19970127	500	工場建設
上本田遺跡		13			～19970214		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	竪穴住居2	土器	大規模集落の一部を調査		
5次調査			土壇5	石器、土製品			
			中近世	溝			
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4917-34	11406	36.12015	139.28314	20000406	86	住宅建設
上本田遺跡		13			～20000412		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	埋壕	土器、石器	中期集落の周縁地の調査		
6次調査			中近世	溝			
所収遺跡名	所在地名	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
1回年代	岡谷市本田4888-1	11406	36.12119	139.28542	20060222	1,500	体育館建設
上本田遺跡		13			～20060315		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上本田遺跡	集落	縄文 中期	黒石2	土器、石器	中期集落の東端を調査		
8次調査			縄文 前期	土器			
発掘調査の概要							
縄文時代中期後半を中心とする集落の周辺部の調査報告である。今回の報告により、遺跡の東端、南端の分布の限界が明らかにされ、一方西側は3号埋壕の縁部により、遺跡が広がることが確認された。住居群は1次調査区から3次調査区を中心に重複して検出され、周辺の住居は小型化し分布が疎くなる。縄文土器は三雲利式や中葉のものが主体で、独自の文様形成をすることを特徴とする。また、跡台や有孔脚付土器などの特殊土器の出土量が多い。荒川中流域の拠点集落としての位置づけを今報告でも裏づけることとなった。							

上本田遺跡Ⅱ

平成19年3月25日

編纂・発行 岡谷市教育委員会

埼玉県岡谷市本住町17-3

印刷 凸版印刷株式会社

航空写真



3次調査区全景



4次調査区全景



5次調査区全景

調査区



3次調査区(北東から)



3次調査区(北西から)



2次調査区西部(西から)



4次調査区(東から)



5次調査区(北東から)



6次調査区(北東から)



8次調査区南半(東から)



8次調査区北半(東から)

49号住居 00001



(東から)



(北から)



手前49号住居



50号住居 00002



(北から)



(西から)



石圃埋壺炉

51号住居 00003



全景 (西から)



遺物出土状態(東から)



土層



地床炉土層



遺物出土状態



埋壺





全景（東から）



全景（南から）



遺物出土状態（東から）



遺物出土状態（東南から）



遺物出土状態（西から）



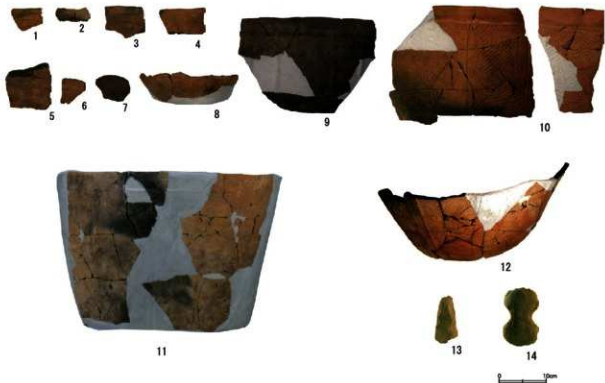
石囲炉

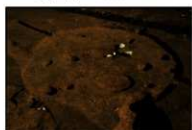


柄部分



土層（西から）





全景（南から）



全景（東から）



遺物出土状態（東から）



土層（西から）



遺物出土状態（西から）



炉（西から）



炉土層



54号住居 00006



全景（北から）



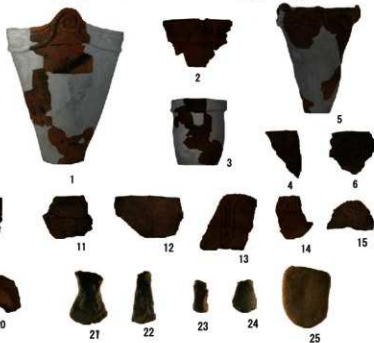
全景（東から）



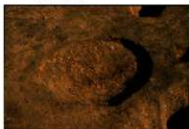
土層（東から）



遺物出土状態（東から）



55号住居 00007



炉（南から）



炉土層



56号住居 00008



全景 (西から)



全景 (東から)



遺物出土状態 (西から)



土層 (西から)



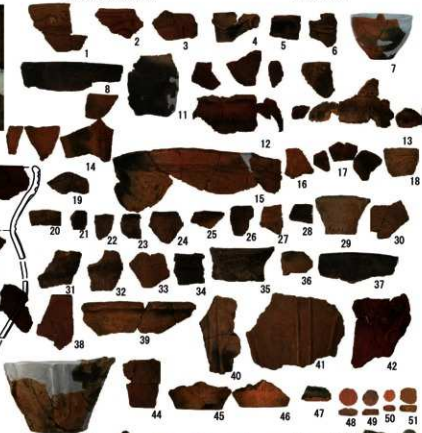
炉周辺 (西から)



住居内集石



住居内配石





全景（南から）



全景（西から）



土層（北から）



石囲埋壺炉（東から）



石囲埋壺炉（北から）



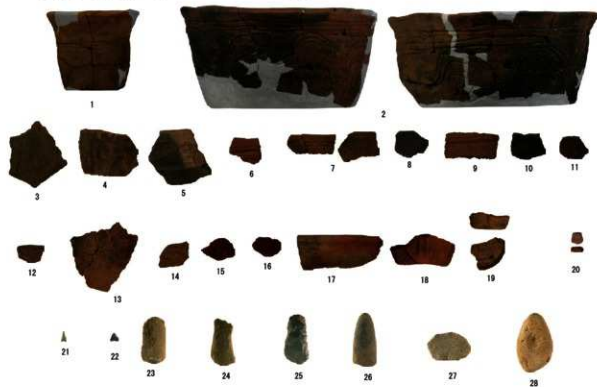
石囲埋壺炉土層



遺物出土状態（東から）



伏壺



58号住居 00011



全景（南から）



全景（東から）



土層（南から）



遺物出土状態（東から）



遺物出土状態



住居内土坑



59号住居 00012



全景（西から）



全景（東から）



遺物出土状態（南から）



土層（東から）



石垣埋壺炉（北から）



炉土層

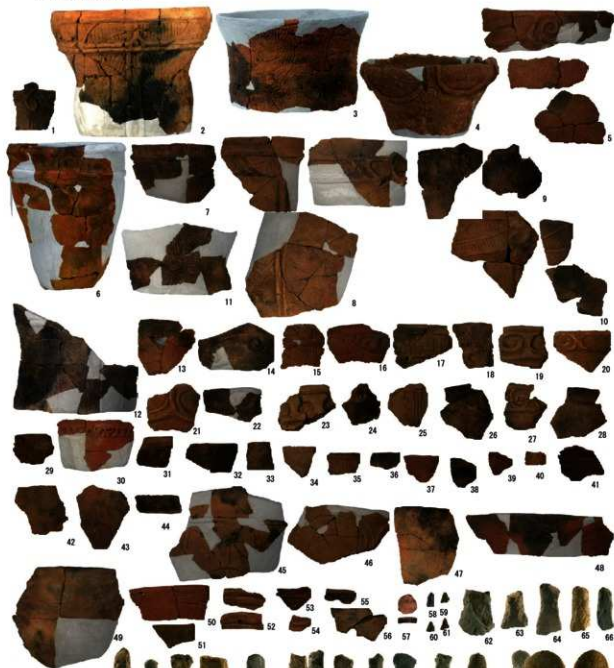


埋壺と伏壺



集石下部

59号住居 00012



60号住居
00013





全景（南から）



全景（西から）



遺物出土状態（北から）



土層（東から）



石囲炉（南から）



炉土層



炉上面遺物出土状態



埋裏





全景（東から）



全景（北から）



遺物出土状態（南から）



土層（東から）



遺物出土状態（東から）



遺物出土状態



炉上面



埋壘炉上面



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26

27

28

29

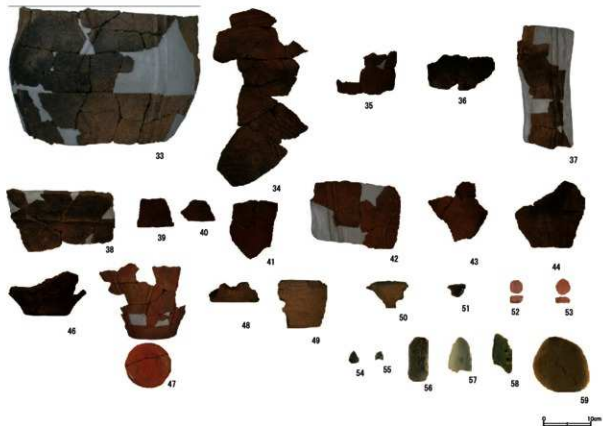
30

31

32



62号住居 00015



63号住居 00009



全景（東から）



全景（南から）



64号住居 00016



全景(南から)



全景(東から)



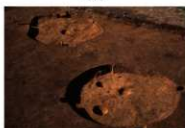
土層



遺物出土状態



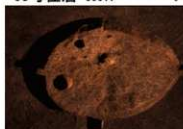
地床炉断面



1・2号住居



65号住居 00017



全景(東から)



土層



炉・柱断面



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態





全景(南から)



地床炉上面遺物出土状態



土層



遺物出土状態



地床炉断面



地床炉



柱穴断面



周溝土層



1



0 50mm



全景(南から)



遺物出土状態(北から)



土層



石囲炉



石囲炉断面



石棒出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態(南から)



1



4



2



3



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23





土坑 00020



42号土坑



43号土坑



44号土坑



45号土坑



1号風倒木



1号風倒木・45号土坑



46・47号土坑(東から)



5号溝(東から)



62号土坑



63号土坑



68号土坑



71号土坑



52号土坑



60・61・64号土坑



53・54・55号土坑



78号土坑



80号土坑



7号溝土層

集石 00021



5号集石 (東から)



8号集石 (西から)



6号集石 (西から)



7号集石



4号集石



4号集石



10・11号集石 (東から)



10号集石



10号集石2面



11号集石



11号集石2面



12号集石



13号集石



13号集石振り方



8次調査集石分布 (北から)



14号集石

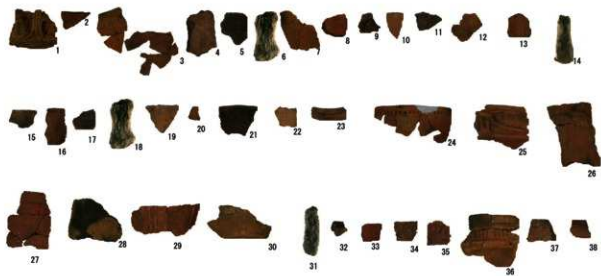


15号集石確認状況 (西から)

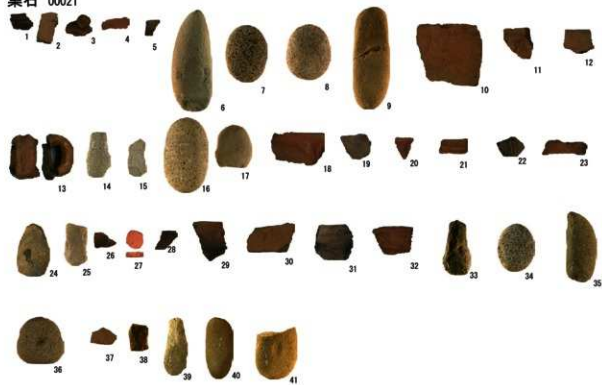


15号集石

土坑 00020



集石 00021



埋壙 00022

1号埋壙



遺物出土状態 (西から)



1

2号埋壙



屋外埋壙確認状態



同側面



同土層



2

3号埋壙



確認面



第二面



3



包含層出土前期・後期土器 00023



包含層

2次 00024



3次 00025



4次 00026



5次 00027



6次 00028



8次 00029



近世土坑 00030

73号土坑



第1層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第2層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す



全景（南から）

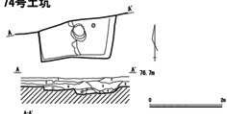


土層

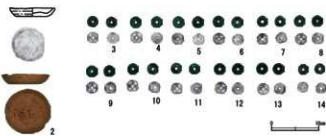


鉄鍋出土状態

74号土坑



第1層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第2層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第3層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第4層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第5層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第6層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第7層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第8層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第9層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第10層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第11層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第12層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第13層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す
第14層 腐植土層 約10cm下の中心部を多数に穿孔し、土を攪拌後埋す



全景（東から）



土層（南から）



遺物出土状態

75号土坑

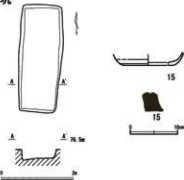


全景（南から）



土層

76号土坑



15
15

●
●
16

8次調査の概要



調査区南側（東から）



調査区北側（東から）



集石分布（北から）



14号集石



調査区南側拡張区



石蹴出土状態



15号集石



15号集石確認状況



測量風景



石蹴出土状態2



調査風景